

# 技術開発力を武器に海外市場への展開を目指す！

**会社名** 株式会社日本キャリア工業  
**所在地** 愛媛県松山市東垣生町980-5  
**従業員** 127名  
**資本金** 4,000万円  
**売上高** 26.5億円  
**業種** 食品加工機械の開発・設計・製造・販売・メンテナンス



## 支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 海外進出の道筋を明確にするとともに、それに合ったパートナーの選定、パートナーとの契約、知財戦略の策定と不足する知財の手当を進める。
- 全社的に知的財産を意識した事業の設計・実施ができるようになる。
- 事業面・知財面で社内体制が整備され、リスクを抑えた事業の推進が可能となる。

## 支援を受けてできるようになったこと

After

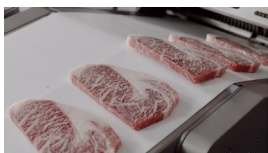
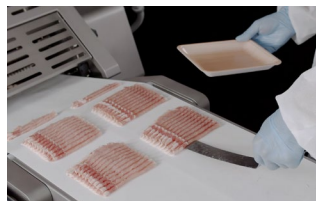
- 対象商品を欧州から展開する方針を明確化した。国ごとの販売パートナーの選定と契約の準備に着手。知財権の補強に向け、改良技術を権利化する方向で検討継続。
- クリアランス面では大きな障害となる他社権利はないことを確認できた。
- 事業面及び知財面において、社員個々人のレベルアップが図られ、会社の組織力が向上した。営業秘密管理の体制整備に向けた取組も着手した。

## 今後の事業展開の展望

Future

- コロナ禍で海外展開の営業活動が制限されていたが、2022年に入って欧州展示会出展を皮切りに営業活動を本格化。2023年6月以降欧州市場に商品投入を予定。
- 海外市場の開拓は、まずは欧州で実績を作り、その後、米州への横展開を予定(欧州2社と販売委託契約締結を終え、さらに5社と協議中。米国も1社締結完了)。

## 重点支援を受けた事業や商材



当社は、食品加工機械の開発、設計、製造、販売およびメンテナンスを一貫して行っている。当社製品は、食品スーパーや食肉加工センター、セントラルキッチン、食品メーカーの工場などで使われている大量処理用の「産業機械」分野に位置づけられる(主な製品:肉を薄くスライスする機械、冷凍原料等を細かくカットする細断機・フレーク状に切削加工するカッター、肉挽き機、ミンチ肉の定量自動盛り付け装置、ハンバーグなどを連続成形する機械等)。今回の主たる対象製品はバンドナイフスライサー。

【出典】株式会社日本キャリア工業ホームページ  
<https://nippon-career.co.jp/>



## 重点支援を実施するにあたって整理した課題

取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
海外事業のフィージビリティスタディと戦略の検討が不十分	本格的に海外進出するにあたって、ニーズ・市場規模・競合などの事業環境を踏まえたうえで、どの国・地域に何をどの順番で展開するかを検討し、それを踏まえた事業戦略を明確にする必要がある。策定した事業戦略を具現化するビジネススキームの検討及び実行計画の策定が必要である。
知財戦略の検討及び知財対応が不十分	多くの特許を保有しているが事業との関係においての管理は十分とは言えない。海外での知財対応が手薄で補強方針が不明確である。今後参入障壁を築き模倣リスクを低減する意味で事業を左右する重要な事柄となっている。
事業パートナーとの協力体制の構築と契約整備が必要	製造、販売は外部のパートナーを活用する可能性が高いが、これまで外国企業との契約経験がない。そのノウハウを身に着けることはリスクを抑えて事業を行うためには欠かせない。
海外展開に向けた社内体制の整備が遅れている	海外事業を軌道に乗せ、安定させるためには、それを支えるしっかりとした社内体制(開発、知財管理、営業、販売、保守)の構築と人材育成が必要である。



## 重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと

支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
食品加工機械の海外事業のフィージビリティスタディと事業戦略の策定	海外展開の道筋を明確にすることができた。引き続き、デモ機の貸出しを通じた営業を進めるとともに、広報にも力を入れていく。	中小企業診断士 技術士
海外事業展開を有利に進めるための知財戦略の策定と実行	知財管理について、常に費用対効果を意識しながら進捗。EP以外の欧州知財クリアランスは、競合などに的を絞って行っていく。グローバル市場でのブランドの確立の必要性を実感し、活用を検討していく。	中小企業診断士 海外知財PD 弁理士
事業パートナーとの協力体制の構築と関連契約の整備	当初のターゲットであった中国については、コロナ禍や事業上のリスク拡大を勘案し一旦保留し、欧州の優先順位を上げ、柔軟な対応で事業を進めていくことを判断。	中小企業診断士 弁護士 技術士
海外事業展開に向けた社内体制の整備	広報活動についてのアドバイスをもとに、HPのリニューアルに反映させていく。営業秘密管理について、部長会での啓蒙活動から着手していく。	中小企業診断士 海外知財PD 知財戦略AD 弁理士 広報専門家

## 支援チーム紹介

リーダー専門家: 三好康司 中小企業診断士

活用専門家: 弁護士、技術士、弁理士(ブランド専門家)、海外知財PD、知財戦略AD、広報専門家

知財総合支援窓口担当者: 愛媛県知財総合支援窓口 白石博昭

PO(プログラムオフィサー): 中山 和彦